

国内の畜産物の需給動向

牛肉

6年10月の牛肉生産量、前年同月比2.6%増

生産量

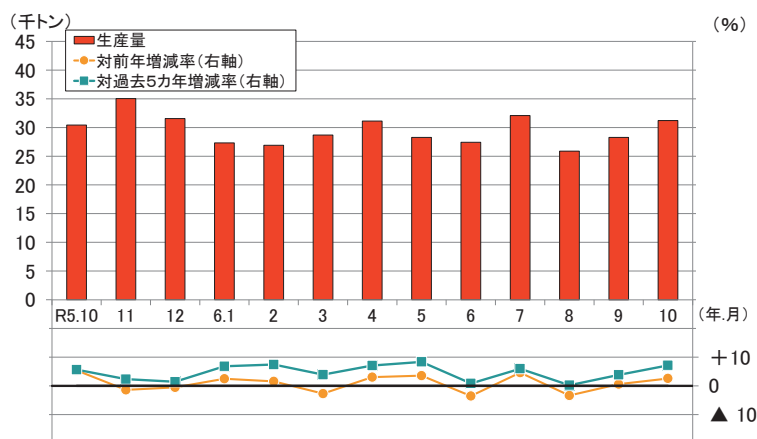
令和6年10月の牛肉生産量^(注1)は、3万1210トン（前年同月比2.6%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万5887トン（同8.0%増）と前年同月をかなりの程度上回った一方、乳用種は

7209トン（同0.1%増）と前年同月並み、交雑種は8038トン（同1.1%減）と前年同月をわずかに下回った。

なお、過去5カ年の10月の平均生産量との比較では、7.2%増とかなりの程度上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

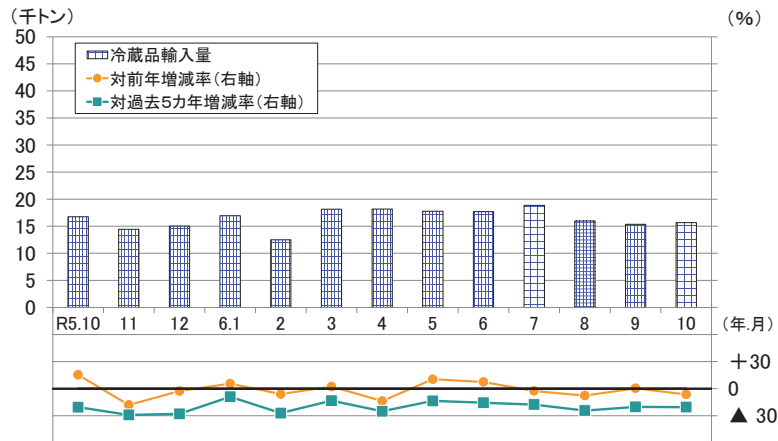
10月の輸入量について、冷蔵品は、国内需要の低迷により低調に推移する中、主要輸入先である豪州産および米国産輸入量が減少したこともあり、1万5679トン（前年同月比6.4%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。冷凍品は、輸入品在庫量が多かったことにより前年同月の輸入量が少なかったことに加え、豪州産のうち主に加工用のひき材

などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、2万8215トン（同19.9%増）と前年同月を大幅に上回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)では、4万3933トン（同8.9%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

なお、過去5カ年の10月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は20.5%減と大幅に、冷凍品は7.0%減とかなりの程度、いずれも下回る結果となった。

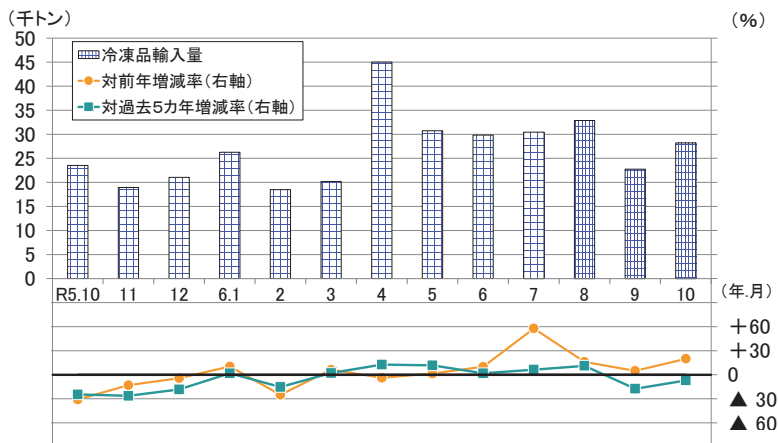
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

10月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）は147グラム（前年同月比1.7%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較では、15.0%減とかなり大きく下回る結果となった。

10月の外食産業全体の売上高は、前年に比べ日曜が少ない曜日回りとなり、業態によっては客数などに影響があったが、各種販促

キャンペーンが堅調であった他、月間訪日外客数が過去最高を記録したことなどから、前年同月比6.1%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、期間限定の季節メニューやゲーム業界とのコラボ企画が好評で、同4.3%増と前年同月をやや上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、コマーシャルによる訴求や値引きキャンペーンで集客し、同12.2%増

と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、曜日回りの影響で客数に影響があったものの、価格改定とキャンペーンの効果により、同2.7%増と前年同月をわずかに上回った。

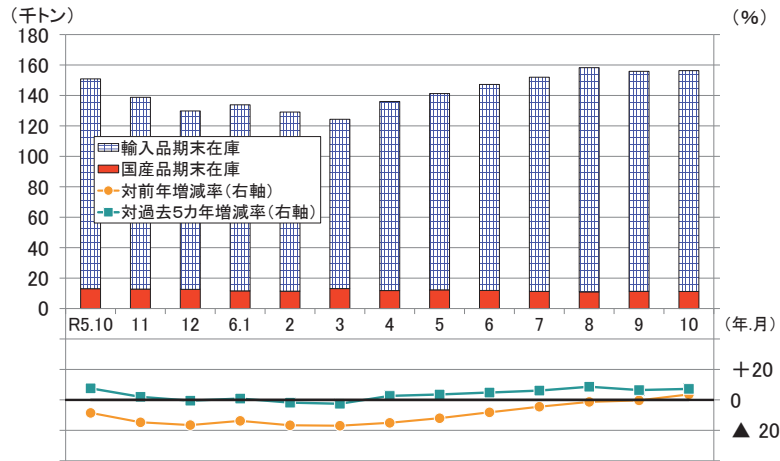
推定期末在庫・推定出回り量

10月の推定期末在庫は、15万6308トン（前年同月比3.6%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、国産品は1万

1230トン（同13.8%減）と前年同月をかなり大きく下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は14万5078トン（同5.2%増）と前年同月をやや上回った。

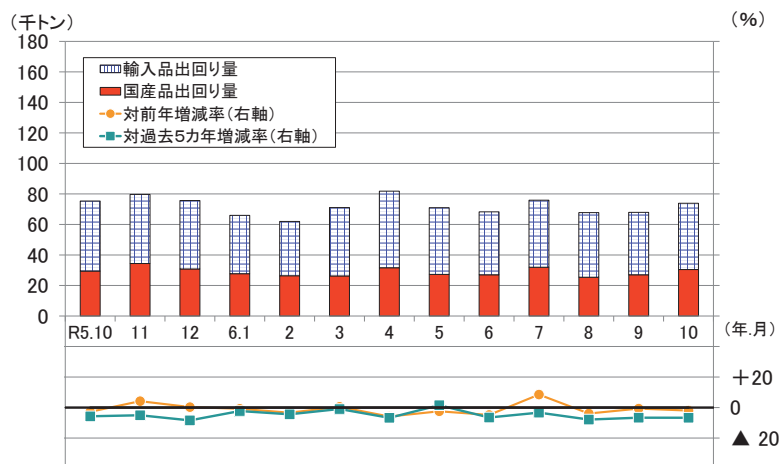
推定出回り量は、7万3873トン（同2.0%減）と前年同月をわずかに下回った（図5）。このうち、国産品は3万469トン（同3.4%増）と前年同月をやや上回った一方、輸入品は4万3405トン（同5.4%減）と前年同月をやや下回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

6年10月の豚肉生産量、前年同月比1.5%増

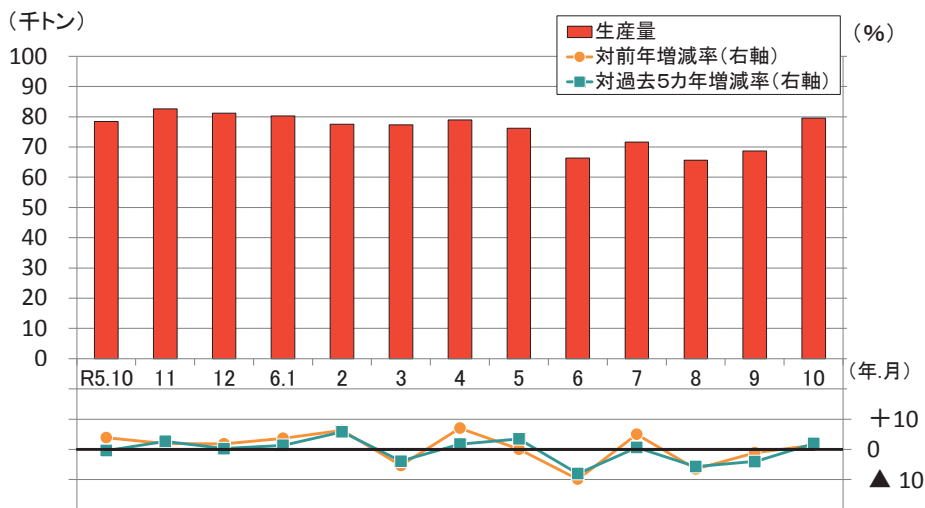
生産量

令和6年10月の豚肉生産量は、7万9625トン（前年同月比1.5%増）と前年同月を

わずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の10月の平均生産量との比較でも、2.0%増とわずかに上回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

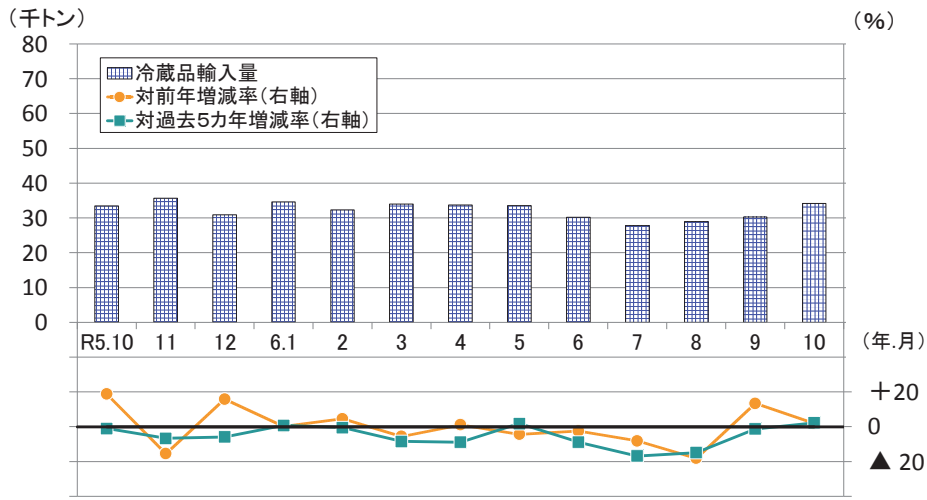
10月の輸入量について、冷蔵品は、為替や現地相場高の影響などにより低調に推移する中、前月の入船遅れ分の通関などによりカナダ産輸入量が増加したことなどから、3万4179トン（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図2）。冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産輸入量の増加の他、北米産およびEU産輸入量も増加したことなどから、5万2541トン（同43.6%増）

と前年同月を大幅に上回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注)でも、8万6742トン（同23.7%増）と前年同月を大幅に上回った。

なお、過去5カ年の10月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は2.4%増とわずかに、冷凍品は23.3%増と大幅に、いずれも上回る結果となった。

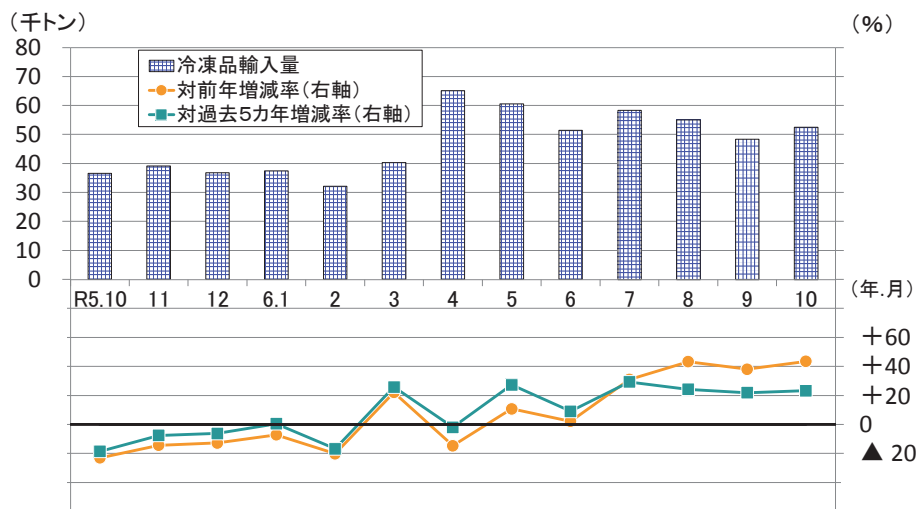
(注) 輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

10月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）は、616グラム（前年同月比3.8%減）と前年同月をやや下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較でも、4.8%減とやや下回る結果となった。

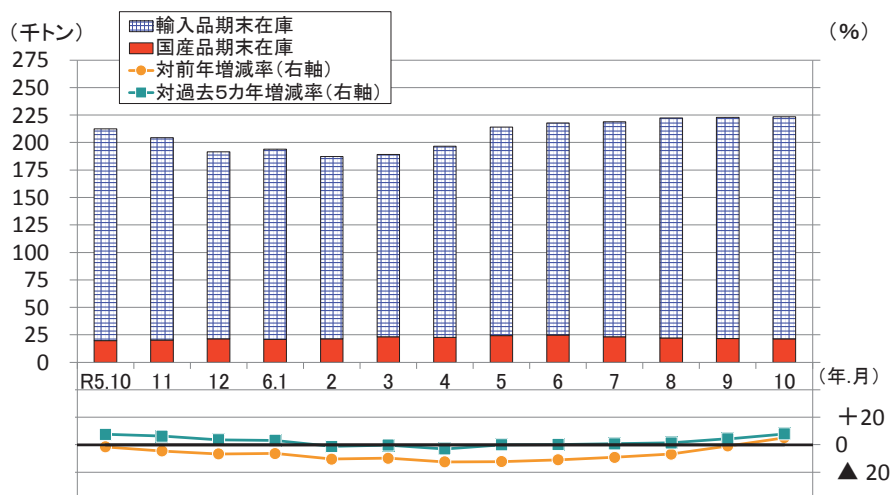
推定期末在庫・推定出回り量

10月の推定期末在庫は、22万3306トン（前年同月比5.1%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、輸入品は、20万1922トン（同4.7%増）と前年同月をやや上回った。

推定出回り量は、16万5716トン（同3.0%増）と前年同月をやや上回った（図5）。このうち、国産品は7万9699トン（同

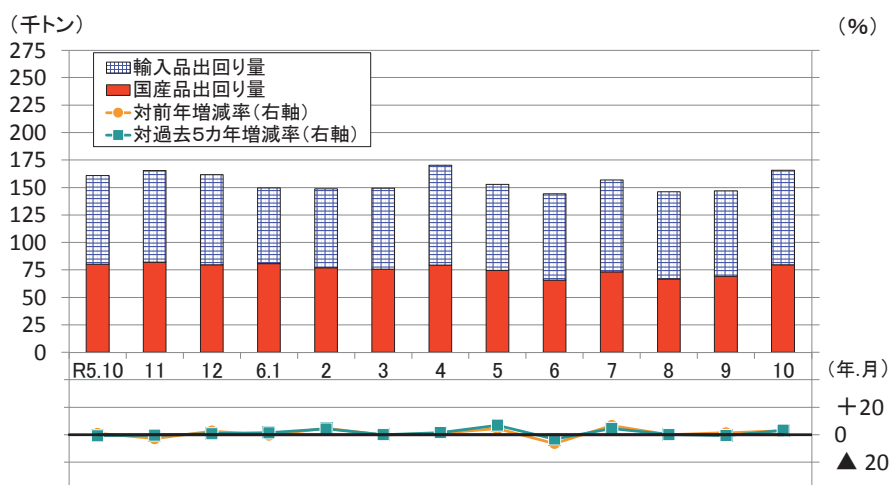
0.5%減) と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は8万6017トン(同6.5%増) と前年同月をかなりの程度上回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

鶏肉

6年10月の鶏肉生産量、前年同月比1.5%増

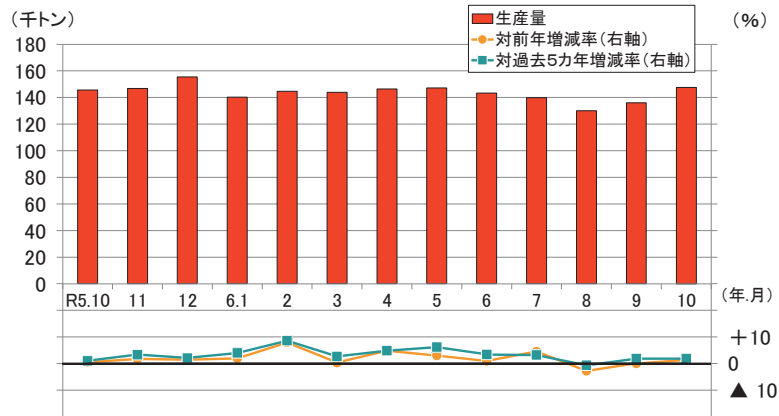
生産量

令和6年10月の鶏肉生産量は、14万7681トン（前年同月比1.5%増）と前年同月

をわずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の10月の平均生産量との比較でも、1.9%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

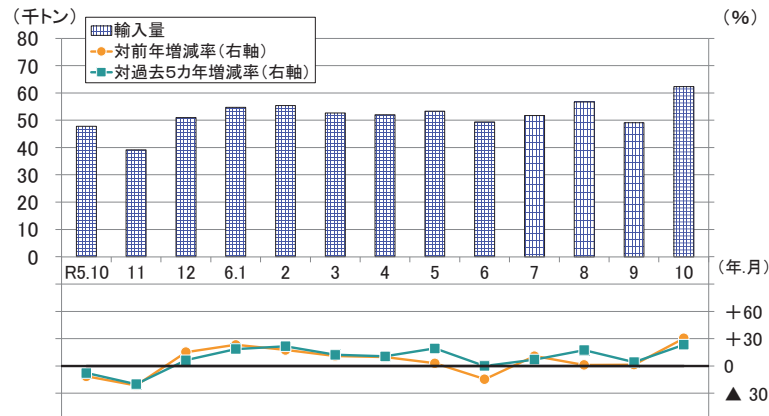
輸入量

10月の輸入量は、国内の節約志向を背景とした堅調な鶏肉需要により、ブラジル産、タイ産ともに輸入量が増加したことから、

6万2323トン（前年同月比30.4%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。

なお、過去5カ年の10月の平均輸入量との比較でも、23.4%増と大幅に上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

10月の鶏肉の家計消費量(全国1人当たり)は、550グラム(前年同月比5.8%増)と前年同月をやや上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較でも、5.1%増とやや上回る結果となった。

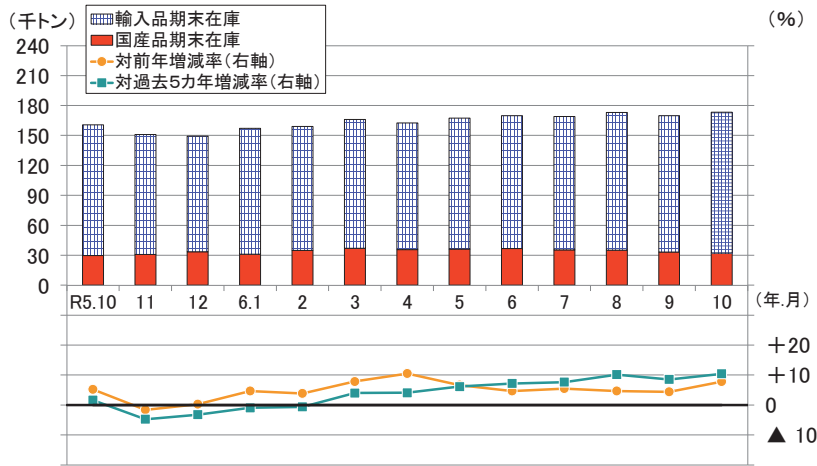
推定期末在庫・推定出回り量

10月の推定期末在庫は、17万3314トン

(前年同月比7.9%増)と前年同月をかなりの程度上回った(図3)。このうち、輸入品は14万1112トン(同7.8%増)と前年同月をかなりの程度上回った。

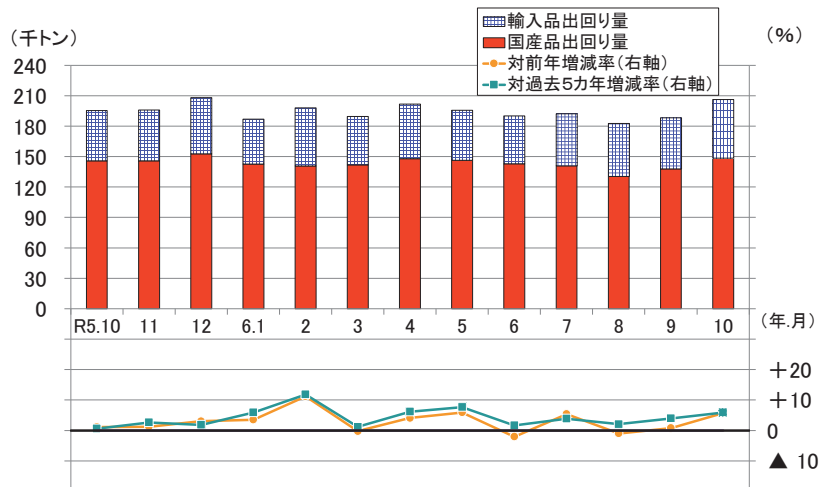
推定出回り量は、20万6362トン(同5.7%増)と前年同月をやや上回った(図4)。このうち、国産品は14万8633トン(同1.9%増)とわずかに、輸入品は5万7729トン(同16.9%増)と大幅に、いずれも前年同月を上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)

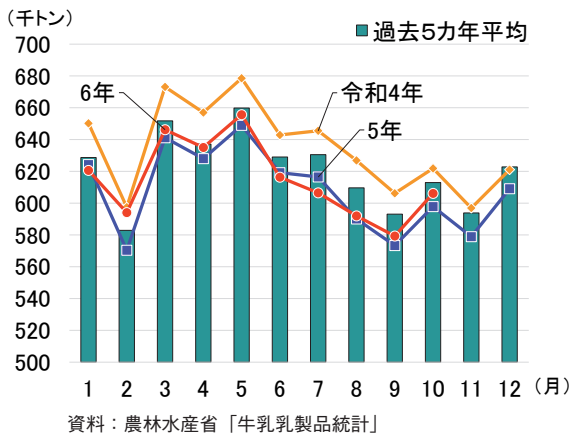
牛乳・乳製品

10月の全国の生乳生産量、3カ月連続で前年同月を上回る

北海道の生乳生産量、前年同月比3.4%増

令和6年10月の生乳生産量は、60万6148トン（前年同月比1.4%増）と3カ月連続で前年同月を上回った（図1）。地域別では、北海道が35万4086トン（同3.4%増）となり、昨夏と比べて若干暑さが和らいだことや分娩のズレによる夏産み頭数の増加などを受け、3カ月連続で前年同月を上回った。一方、都府県では、夏の酷暑により7月に前年を下回り、9月以降も厳しい残暑が続いたことから25万2062トン（同1.3%減）と4カ月連続での減少となった。

図1 生乳生産量の推移



10月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは33万9634トン（同0.5%増）と、わずかながらも前年同月を8カ月ぶりに上回った。このうち、業務用向けについては2万7517トン（同0.4%増）と5カ月連続で上回った。

乳製品向けは26万2549トン（同2.5%増）

と前年同月を3カ月連続で増加した。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万9057トン（同3.2%減）と2カ月連続で下回り、チーズ向けは3万4068トン（同4.7%減）と4カ月連続で下回った。一方、脱脂粉乳・バター等向けは、12万3288トン（同9.7%増）と前年同月をかなりの程度上回り、3カ月連続の増加となった（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の牛乳生産量、前年同月比1.0%増

10月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、27万4618キロリットル（前年同月比1.0%増）と前年同月を上回った。成分調整牛乳は前年割れが継続しており、1万8299キロリットル（同6.6%減）とかなりの程度下回った。加工乳は、1万2961キロリットル（同1.2%減）と前年同月をわずかに下回った。

10月のバター在庫量、2カ月連続で前年同月を上回る

10月のバターの生産量は、5007トン（前年同月比16.3%増）と前年同月から大幅に増加し、3カ月連続で上回った（図2）。出回り量は7020トン（同10.6%増）とかなりの程度前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ）。10月末の在庫量は、2万4881トン（同2.0%増）となり、令和4年4月以来の前年同月比増となった前月に続き、2カ月連続で上回った（図3）。

図2 バターの生産量の推移

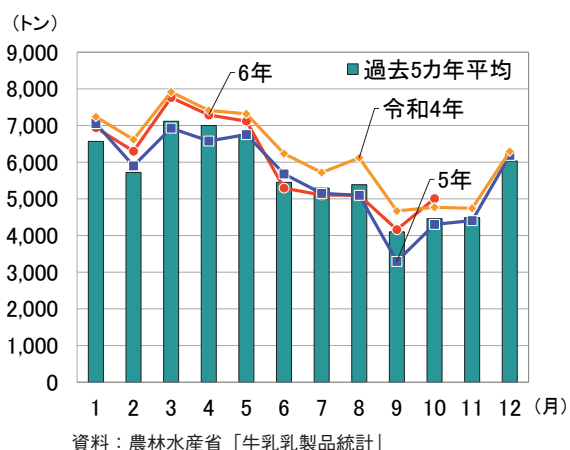


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

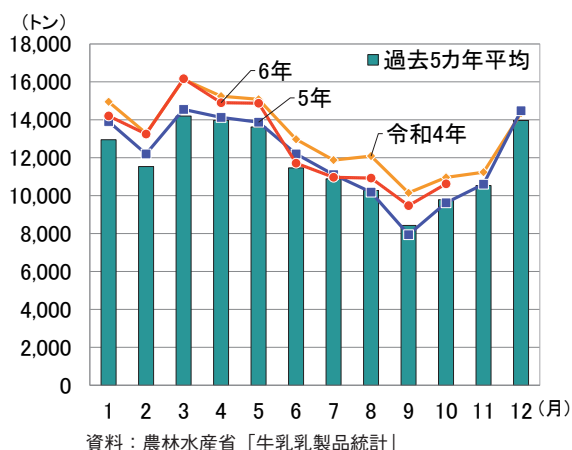


図3 バターの在庫量の推移

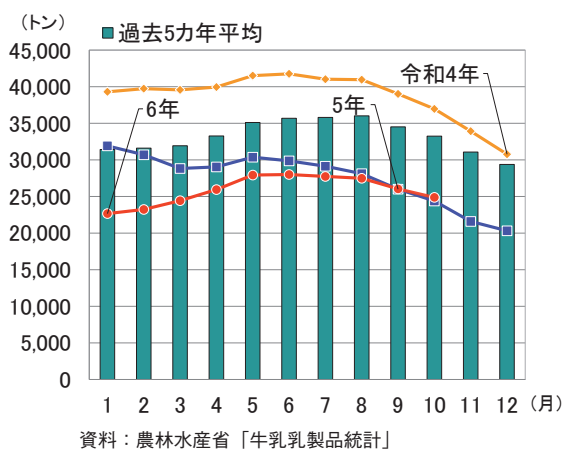
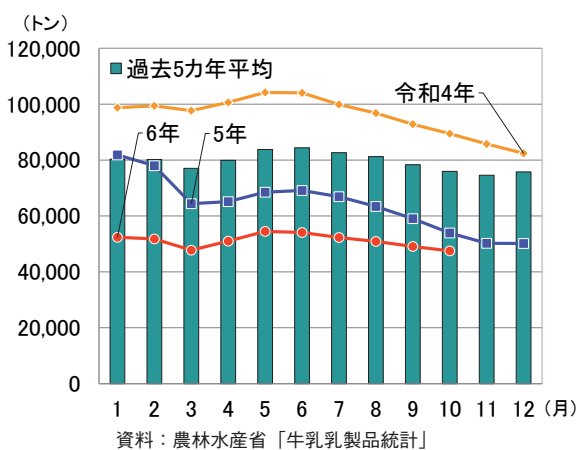


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



10月の脱脂粉乳在庫量、2カ月連続で5万トンを下回る

10月の脱脂粉乳の生産量は、1万626トン（前年同月比10.4%増）と前年同月からかなりの程度増加し、3カ月連続で上回った（図4）。一方、出回り量は1万2217トン（同15.2%減）と4カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量は、在庫低減対策の効果もあり、令和4年10月以降前年同月減で推移しており、10月末は4万7505トン（同11.9%減）と、2カ月連続で5万トンを下回った（図5）。

牛乳類全体販売個数、前年同期を下回る

一般社団法人Jミルクが令和6年12月5日に公表したJミルク需給短信（週報）によると、11月25日の週の牛乳類全体の販売個数は1.2%減と、2週連続で前年同期を下回った。品目別では、牛乳は前週に比べて東日本で平年より気温が高かったこともあり、2週ぶりに前年同期を上回った。一方、成分調整牛乳、加工乳、乳飲料は、前週に比べそれぞれ減少幅が縮小したものの、成分調整牛乳は6週連続、加工乳は2週連続、乳飲料は21週連続、前年同期を下回った。今後は、気温の低下とともに消費が落ち込む時期を迎えることから、引き続き牛乳類の需要喚起に取り組むことが求められる。

（酪農乳業部 天野 明日香）

鶏卵

6年11月の鶏卵卸売価格、前年同月比10.6%高

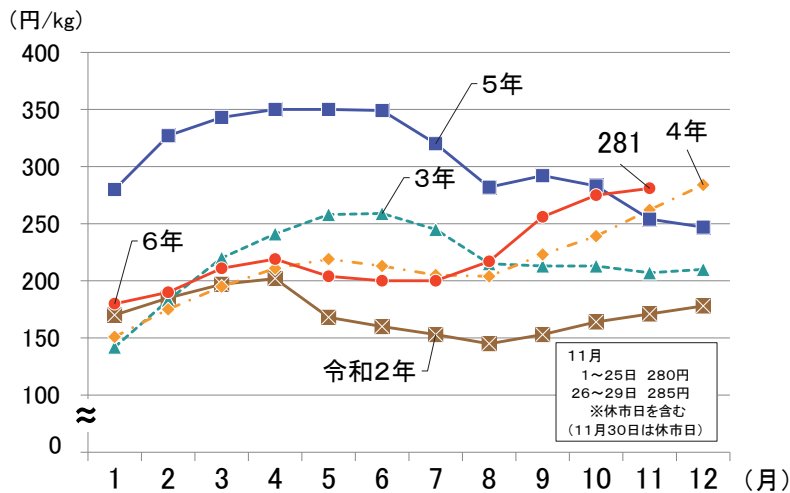
卸売価格

令和6年11月の鶏卵卸売価格（東京、M玉基準値）は、1キログラム当たり281円（前年同月差27円高、前年同月比10.6%高）と、前月から同6円上昇し、令和6年に入り初めて前年同月の同価格を上回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、上昇傾向が継続しており、月初の同280円から26日には同285円に上昇し、月間の上昇幅は同5円となった。なお、過去5カ年の11月の平均卸売

価格との比較では、26.0%高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、生産量は、前年よりも約1カ月早く発生が確認された家きんの高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響が懸念されるものの、外気温の低下により産卵率および個卵重には回復傾向が見られている。一方、需要面を見ると、量販向け需要が安定している中、インバウンドを含む外食などの業務用向け需要も堅調に推移している。

図 鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

家計消費量

10月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）は、902グラム（前年同月比1.2%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の10月の平均消費量との比較では、4.1%減とやや下回る結果となった。

（畜産振興部 大西 未来）